3　各事務室報告

3.1　図書館総務事務室

図書館総務事務室は，図書館全般の予算管理,契約,交渉等の庶務業務,経理業務,図書受入・整理業務,雑誌業務,図書館システム関連業務および中央図書館の資料発注業務を含め,図書館の管理運営業務の大部分を担当している。これら経常業務に加えて，2012 年開館予定の新和泉図書館関連の調整業務，2013 年度開設の中野新キャンパス図書館の検討などを行った。

また，2010 年度から規程が整備された明治大学マンガ図書館の運営に関する業務，明治大学国際マンガ図書館（仮称）設置計画に関する業務も担当している。実際には，これらマンガ関連の業務追加に伴う人員手当ては行われておらず，非常に厳しい少人数下での業務遂行となっている。

3.1.1　補助金

2011 年度も，私立大学等経常費補助金（特別補助）の申請については，図書館独自政策を行っていない。これは2009年度以降，図書館政策に適合する申請がないためである。ICT関連の特別補助が一般補助に変更となり，電子資料数を対象とした補助金申請ではなくなった。また，3 年間継続申請してきた貸出機会の増大と読書推進活動の一部についても終了した。従って，2011年度の補助金申請は，高額資料における申請のみとなり，「山一證券株式会社　マイクロフィルム版　第三集」について採択された。

加えて，2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災に関して，私立学校施設災害復旧事業に対する補助が実施されたため，貴重資料の修復事業を申請した。

3.1.2　除籍

2011 年度は実施していない。2010 年度に和泉図書館建設に伴う施設移転に関連して実施した除籍数が膨大であったことから，前期の実施は控えた。後期に実施計画していたが，大学の資産登録と図書台帳の金額との齟齬問題の是正（後述）を優先することになったため，除籍処理を見送ることとした。

なお，すでに本学の書庫収容は限界に達しており，除籍等の処理によってある程度の資料収容スペースを確保しなければならず，これは喫緊の課題であることは変わらない。従って，2011 年度実施されなかったことは，図書館全体に大きな課題を残した結果となった。

3.1.3　請求記号ラベルの変更

前年度検討した全館統一ラベル（開閉の区別は第4区分の印字でおこなう）の使用を開始した。これにより，配置場所による使い分けをする必要がなくなり，装備業務効率の改善が見られた。また，背ラベルに明大マークがあることによって，本学図書館所蔵資料であることが一目瞭然となった。

3.1.4　UNBOUND 請求記号の中止

簿外雑誌には，UNBOUND 請求記号を使用してきたが，配架場所を明確に提示できないことから利用者にとっても管理側にとってもわかりにくいものであった。特に和泉図書館ではUNBOUND雑誌が多いことから，和泉新図書館の開館を機会に雑誌の請求記号の見直しを検討した。その結果，一部の新聞等を除いて，簿外雑誌にも固定雑誌と同様の請求記号を付与することにした。

3.1.5　蔵書印の仕様変更

固定資産資料への蔵書印の押印は，図書管理規程で定められており，これまで公印規程で定められた公印を蔵書印として押印してきた。しかしながら，公印は，複製できないことや学外に持ち出せないことから，装備作業工程に影響があった。そこで，複数同時に作業を出来るようにすること，将来的に委託業者先での作業を可能にすることを想定し，総務課と打合せを行い，公印ではない別の蔵書印（以下「所蔵印」とい

う)を作成し，2 種類の蔵書印を使い分けることとした。公印である蔵書印は貴重書に押印し，新たに作成した所蔵印は一般図書に押印し，資産の管理をすることで業務効率を上げていく。

3.1.6　目録・装備の業務委託

前年度より目録・装備委託業者が一斉に切り替わり，2 年目を迎えた。毎月定例会を開催し，実績報告，レアケースの目録の仕様についての確認，問題の見られた目録についての指摘などを協議した。

2 年間の継続業務により，徐々に要望レベルに近づいてきているが，今後も上昇させていくためには，図書館職員のスキルも高くなければならない。業務委託が進む中で，人材育成に課題が残る。

2011 年度は，以下の大型寄贈図書整理の業務委託も行った。

- 佐原徹哉先生寄贈図書（主に東欧言語）和泉図書館に所蔵
- 阿部知二先生寄贈図書（主に英語）和泉図書館に所蔵
- 永田雄三先生寄贈図書（主にトルコ語）中央図書館に所蔵
- 前場幸治氏寄贈図書（瓦関係の文献）博物館図書室に所蔵

また，中野図書館に所蔵予定図書の目録/装備を開始した。

3.1.7　雑誌受入業務

2008 年度から開始した(株)明大サポートへの業務委託を引き続き行った。

業務スキルは，要望レベルにほぼ達成している。しかし，このことは前項と同様，図書館職員の雑誌に関する知識が希薄になっていく恐れが非常に大きい。

3.1.8　政策経費購入資料への対応

前年度同様，経常予算以外で購入された資料として，学習用複本図書，新学部設置経費による購入図書，外国図書充実予算による購入図書の目録/装備を行った。

3.1.9　図書館消耗品費

これまで調達課主管予算で扱っていた消耗品のうち，図書館専用の装備・備品等に関わる消耗品の管理を図書館で行うこととなった。これにより，当該予算が図書館に移管された。

3.1.10　発注業務の移管

特別資料や文庫資料などの発注のほか，中央図書館の学習用図書・研究用図書の発注も行っているが，和泉図書館・生田図書館で行っている発注業務と同様に，中央図書館学習用図書・研究用図書の発注業務を中央図書館事務室に移管することを検討した。この結果，2012 年度から移管することとし，年度末には準備作業を行った。

3.1.11　システム関連業務

本年度は，2010 年度にリプレイスされた図書館システムソフトウェアに対して現場からの要望にこたえるべく，機能追加，障害修正作業を行った。システムは大きな障害もなく稼動しており，円滑に業務が行われている。

年末に，中央図書館のマルチメディアエリア機器をリプレイスした。ネットブート型のシステムを導入したため，事前に工事を行い，ネットワークインフラの増強も図った。リプレイス後はコンピュータ管理業務等，現場の負担も軽減され，利用者の要望にも迅速に対応できる体制が整った。

新和泉図書館建設関連では，仕様設計に則り，機器，業者を選定し，インフラを含めたシステムを構築した。貸出ノートパソコン，デジタルサイネージ等の利用者サービスの提供に必要な，認証等のプログラム，アプリケーションを自主開発し実装した。

中野キャンパスについては，関係者と密に連携しながら，仕様検討を進めている。

3.2　中央図書館事務室

中央図書館は，大学創立 120 周年記念事業の一環として建設され，2001 年 3 月 16 日に開館した。地域に開かれ，街と人の記憶に融合するように設計された図書館は，美しい内観と充実した設備を備え，2002 年日本図書館協会建築賞を受賞した。専任職員 8 名，業務委託スタッフ 21 名，総合インフォメーション 6 名，短期嘱託職員 2 名，派遣職員 1 名あわせて 38 名および学生アルバイト若干名で運営されている（2012 年 3 月 31 日現在）。

他の 3 図書館事務室と連携して，蔵書体系や図書館リテラシー教育の拡充を推進中であるが，2011 年度の図書館活動，2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災後の状況，懸案事項について簡潔に記述しておきたい。

3.2.1　休日開館日におけるサービス

休日開館日は，業務委託による要員配置の都合から，利用者のセルフサービスが基本であるが，すでに2008年11月以来，貸出，予約，配送本の受渡し，貸出ノートパソコンの利用についてサービスを実施してきた。近年，電卓使用者のために多目的ホール，教員のために教員閲覧室を開放した。リバティアカデミー主催「図書館司書講習」開講日は，多目的ホール，グループ閲覧室を利用に供した。

3.2.2　図書の返却窓口

貸出図書の返却窓口は，1 階エントランスの返却用ポスト，レファレンスカウンター，地下 2 階貸出カウンターの 3 箇所のほか，防災センター脇の返却ポスト（リバティタワー閉館中も対応可），郵送，宅配，和泉・生田図書館の窓口でも図書返却を受け付けている。

3.2.3　入館者総数・各種ガイダンス等

新入生ガイダンス（大学院研究科，会計専門職研究科，ガバナンス研究科・グローバルビジネス研究科合同。法科大学院は資料提供のみ）295 名，文学部 3 年次ガイダンス 760 名，留学生オリエンテーション 8 名，新任教員ガイダンス 13 名，フリーツアー1 名，ゼミツアー689 名，情報検索講習会 296 名，延べ人数は 2,062 名（2010 年度 2,671 名）だった。そのほか，新任職員研修等を実施し，一部については図書館総務事務室と共同で実施した。

3.2.4　中央図書館ギャラリー展示

中央図書館事務室員 4 名，図書館総務事務室員 2 名によるワーキンググループ（WG）で 5 回の展示を行なった。関係教員と連携しつつ，WG メンバーが企画・渉外，解説執筆，印刷物作成，展示作業，広報を担当した。展示タイトルは，後掲の「中央図書館ギャラリー展示一覧」に載せた。第 40 回は首都圏出版人懇談会，地方・小出版流通センターと共催，第 42 回は蘆田文庫研究会主催で，木工室から協力を得た。また千代田区ミュージアム連絡会に 2 回参加し，展示活動，相互協力について情報交換した。

3.2.5　各種イベントの開催

利用者マナー教育と学生の読書活動推進を兼ねて，中央図書館で図書館バッグデザインコンテストを行った。最も人気の高いデザインで作成した図書館バッグは，各図書館事務室の協力により，3 図書館・ローライブラリーの各窓口で 2011 年 5 月 2 日から新入生向けに配付した。

「知」による社会貢献として，7 月 29 日に小・中学生が大学図書館の業務を体験する第 3 回「一日図書館長体験イベント　大学図書館長のイスをめざせ!」を開催した。

2001 年 3 月 16 日開館以来の延べ入館者数が，2011 年 8 月 18 日に 950 万人に達した。延べ入館者

達成記念として，図書館長から該当者に認定証と記念品を贈呈した。

第 2 回図書館書評コンテストは，「教育の場」として図書館の積極的な活用を奨励するとともに，優れた書評の顕彰を通して学生の読書活動を推進することを目的として企画した。中央図書館事務室が事務局となり，3 図書館で「書評の書き方講座」を 6 回行い，約 60 人が参加した。46 編の応募があり，4 図書館事務室有志の協力による予備選考，選考委員会による選考を経て，最優秀賞などに 12 名を選定した。1 月 31 日に多目的ホールで授賞式を行なった。

3.2.6　施設・設備の保守・管理

大学の国際化に対応して，サイン類の多言語化・更新を行った。地下 3F マイクロフィルム搬送機，ダムベーダー，ブックチェックユニット，ブックディテクションシステム（BDS）等の定期点検または修理を行なった。閲覧用椅子 150 席のクロス張替え，折畳みイス・机等の修繕，書架棚板のペンキ塗り直しを行なった。冬季休業中の 1/4～1/5 に 1F マルチメディアエリアのパソコン約 80 台余りを更新した。

3.2.7　大学主催「環境展」への協力

「環境展」（リバティタワー1 階でパネル展示，2011 年 12 月 12 日～12 月 16 日）で，図書館所蔵の環境問題関連図書のリストを配布した。内容は，地球温暖化や食の安全等について本学教員等が執筆した図書の一覧であり，当該図書は図書館入口に展示した。

3.2.8　ローライブラリーと法学研究科院生の利用促進

ローライブラリーは，中央図書館の館内整理休館日も開館した。また法学研究科院生は，法科大学院生と同様に学生証の提示で入館できる。なお，東日本大震災後は，中央図書館に準じて開館時間短縮を行った。2011 年 4 月 1 日から 6 月 26 日までは，平日・土曜日 9:30～18:00，休日 10:00～17:00（従来と同じ），サービス体制は通常どおりだった。時短期間中に所蔵図書に磁気テープを装着し，通常開館に復すると同時に，図書管理のために BDS を稼働させた。

3.2.9　利用者からの要望への対応

2001 年の図書館開館当初から，投書箱を設置して利用者の声に耳を傾け，図書館サービスの改善に努めてきた。利用者の「声」で，これまでに下記のとおりサービスを改善した。階段通路の右側通行，マイクロリーダープリンター更新，1 階エントランスの置き傘，教員閲覧室の休日開室，教員用・院生用コピー機の設置場所変更，ラウンジの防音ボード設置，夏期休暇中の開館時間延長（2012 年夏から 9 時開館実施予定）など。

また 2 月 1 日に第一回「図書館どうですか? フォーカスグループ」を開催し，中央図書館事務室員と業務委託業者責任者が，利用者の学生・院生から直接，生の声を聞き，質疑に応じた。今後とも図書館環境の改善・サービスの質的向上に取り組んで行きたい。

印象に残った投書として「24 時間開館」を求める投書があった。回答は「実現困難」とした。理由は，キャンパス運営体制，コスト増，省エネ，予算の制約などから実現困難とした。また，電子ジャーナルの導入や雑誌の短期貸出実施で利便性が向上したことも理由の一つである。中央図書館の開館時間は，現状維持が適切と考えている。

3.2.10 図書館の国際交流

大学の国際交流推進にともなう海外からの視察や図書館利用者は，大震災と原発事故により減少した。来館者の名称を挙げれば，タイ王国シーナカリンウィロート大学共同プログラム（5/2～5/28），明治大学夏期短期社会科学プログラム（7/11～7/22），メイジ・ユニバーシティ・クールジャパン・サマープログラム（7/25～8/5），明治大学夏期日本語短期研修プログラム（7/25～8/9），メイジ・ユニバーシティ・ロー・イ

ン・ジャパンプログラム(7/21～8/3),「情報コミュニケーション学部短期学生交流プログラム 2011」タイ国キングモンクット工科大学・シーナカリンウィロート大学(10/17～11/6), AUA(英国大学行政職員協会) Japan Study Tour 訪問団(10/26)などがあった。

3.2.11 東日本大震災後の対応

大震災は, 2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に発生し, ゆれは 4～5 分間続いたように感じられ, 千代田区は震度 5 強を記録した。中央図書館は, 転倒防止された書架等が揺れたが, 人的被害は無かった。施設・設備には, 大きな異常は認められず, 書架から落下した図書を除いて, 被害は無かった。

2011 年度の利用者総数は, 874,439 名(2010 年度 948,513 名)で, 前年度に比べて 74,074 名減少した。理由は, 大震災後の臨時休館, 利用制限, 開館時間短縮による。

2011 年 4 月 1 日から 6 月 26 日まで中央図書館の開館時間は, 下記のとおりである。

4/1～4/24　　月－土 9:00－18:00　休日 10:00－17:00
4/29(休日学習指導日)9:00－17:00
4/25～6/26　　月－金 8:30－20:00　土曜 8:30－19:00　休日 10:00－17:00
5/3～5/5(休日授業実施日)8:30－20:00
サービス体制は通常どおり各階・書庫に入室可だった。6/27 に震災前の通常開館復帰。

3.2.12 その他, 懸案事項

第 6 回ゲスナー賞授賞式典が, 2011 年 10 月 28 日多目的ホールで開催された。ポラックコレクション 100 箱分が, 2011 年 12 月 21 日ローライブラリー隣室に搬入された。

2012 年 1 月 13 日法学部事務長から, ローライブラリーの「エルムの森」設備改修について, 早急に改修工事を進めたい旨連絡を受けた。東日本大震災で被害を受けた準貴重書の補修について, 文部科学省に平成 23 年度私立学校建物其他災害復旧費補助金を申請し, 1 月 20 日付けで交付内定の通知があった。東京医科歯科大学図書館と明治大学図書館との相互利用が, 両大学学長, 両図書館長の協定により 2012 年 2 月 1 日から開始された。

ちなみに 2009 年度から, 下記のような取り組みを行ってきた(丸かっこ内は目的)。図書館書評コンテスト, ブックハンティング(読書推進), 図書館オリジナル・バッグ(利用マナー向上), 延べ入館者達成イベント(図書館利用促進), 自己点検・評価の集い, フォーカス・グループ(サービス改善), 一日図書館長体験(社会貢献), 防災センター職員による自衛消防訓練・避難誘導訓練指導, 巡回コース変更(防災・防犯の強化)などである。このほかに盗難防止・館内秩序の維持向上のために, 監視カメラの設置, 防音壁設置等が懸案となっている。

3.3 和泉図書館事務室

3.3.1 業務体制と人事政策

専任職員 6 名, 派遣職員 1 名及び業務委託(1, 2 部)13 ポストで業務を遂行した。仮図書館での業務運営は, 狭隘な施設の中で最大限のサービス業務をいかにして遂行するかに腐心した。専任職員では男女比が 3 対 3 となり, これにより新図書館に向けての準備業務及び蔵書の引っ越し作業を行うことができた。しかしながら和泉図書館の専任職員の適正人数は 7 名であり, 新図書館への移転作業が過重労働であったことは否めない。ただし, このような現実においても, 一人ひとりの資質の向上こそが組織力の向上であるとの信念のもとに, 自己研鑽を積極的に推し進めることで組織の弱体化を克服した。館員が自らの資質を高めるために, 積極的に語学研修やその他の研修に参加した。特筆すべきは, 夏期休暇中に各自が自主研修を行い, その成果をレポートにまとめて公表したことである。この意義は大きく, その後の新図書館の運営に貢献する基盤となった。

3.3.2　和泉キャンパス新図書館に向けての業務運営

3.11 東日本大震災は新図書館建設にも影を落とした。和泉図書館事務室にとってその最大のしわ寄せは資料の移転作業であり，それは困難を極めた。ただし，作業は図書館業務受託業者との協働作業であり，この関係を良好に保てるか否かが，作業の難しさの中での一縷の望みであった。業者は献身的に作業を遂行し，重労働にもよく耐えてくれた。また当然ながら，移転作業の計画は専任職員の担当であり，一寸の狂いもなく排架計画を立てたことは驚異的であった。当初は他キャンパス図書館職員の応援を仰いで全館体制での移転作業を考えていたが，受託業者及び移転作業業者，そして和泉図書館事務室職員の 3 者で共同して移転作業を無事終えることができた。この間の開館業務の運営は，1 フロアーにすべての職員が集結するという職場環境が作用し，情報共有の面で大きな効果を発揮することとなった。また，「みんなのプロジェクト」という現場の声を吸上げる会議を設けて，受託業者の意見をサービスに生かすことができた。

3.3.3　蔵書構築と選書

部署目標である貸出冊数の増加に取り組んだ。具体的には実務・軽読書コーナー（後に「特設コーナー」に名称変更）を充実させることで，この課題の解決を図った。学生がよく借りる図書を選書することが，貸出冊数の増加につながるとの確信のもとに，「本屋大賞」「大学読書人大賞」「ビブリオバトル本」などを積極的に選書する一方，秋には学生による「ブックハンティング」を行った。また，中野キャンパスに国際日本学部が移転することに関して，中野図書館（仮称）へ移転予定の中野準備本の新着コーナーを開設した。

3.3.4　新入生ガイダンス

全学部の新入生ガイダンス時に図書館利用案内（約 30 分）を実施した。新入生向けの図書館ガイダンスの目標を「印象づけ」と設定し，DVD『情報の達人』第 1 巻　第 0 講「図書館へ行こう！」の上映（15 分）とパワーポイントによる説明を行った。単なる図書館の利用説明にとどまらず図書館を中心に情報を入手して活用する「情報リテラシー」の大切さを実感させ，図書館が情報リテラシーの拠点であることを印象づける内容を目指した。また，館内フリーツアーおよび例年好評であるスタンプラリーを実施した。さらに，図書館の本を借りた新入生に対し，図書館オリジナルバッグをプレゼントした。図書館バッグのプレゼントにより貸出冊数も前年度よりも増加し，新入生に，本をより身近に感じてもらえることに成功した。

3.3.5　杉並区図書館ネットワーク

杉並区図書館ネットワークは杉並区民や区内参加大学図書館利用者への開放（閲覧・貸出）を実施している。区民及び利用者へのライブラリーカード発行枚数 70 枚，入館者数延 1,421 人，貸出冊数 551 冊となっている。同ネットワークの企画事業として毎年開催している講演会は，本年度は 10 月 15 日に杉並区立中央図書館視聴覚ホールで開催された。当日の参加者は 46 名であった。講演内容は例年と異なり，「無縁社会の現状と行方」という図書と直接関わりのないものであったが，参加者から回収したアンケートによると好評であった。例年までと異なる路線の講演会であったため，新しい層に杉並区図書館ネットワークの周知ができた。

3.3.6　利用者サービス（接遇）の改善

ロダンの言葉に「芸術家である前に人である事」とある。この言葉を借りると，「図書館員である前に人である事」となる。過去に図書館の常識は世間の非常識と言われた時代があった。図書館における「サービス」という言葉の意味を問い直さなければならない時代にさしかかっている。日本には「サービス」という言葉以前に「おもてなし」という言葉があり，和泉図書館ではこの言葉に着目した。前年度に引き続き，毎朝入館ゲートにて入館者一人ひとりに挨拶をしている。

3.3.7　その他

投書箱を設置して利用者の声を聞いている。昨年度の投書は 25 件であったが本年度は 5 件であった。図書館員の態度に関するクレームは 1 件もなく，逆に「トイレの豆しば豆知識」の掲示に見られるように，図書館職員の「おもてなし」の心に触れて感謝する投書が見られた。ペットボトルなど蓋の閉まる飲料の館内持ち込みについて利用者アンケートを行った。その結果，99 パーセントの利用者が持ち込み賛成に回ったことで，その後の館内飲食についてのルール確立に役立った。

3.4　生田図書館事務室

3.4.1　東日本大震災関連

① 開館体制

生田図書館は，2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により，壁等にひびが入る，固定書架上部を繋ぐジョイントが緩む，壁際に設置された書架が前に傾く，電動書架が一部動かなくなるなど，施設上の深刻な被害を受けた。そこで施設設備の修繕及び安全確認ができるまでは，以下のとおり中央・和泉両館とは別体制をとった。震災に伴い延期されていた学習指導週間が開始された 4 月 25 日以降，3 館共通の体制となった。

4 月 1 日～3 日　平日のみ 10:00～17:00 の開館。サービスは出納方式による館外貸出のみ。(3 月中と同様)

4 月 4 日～24 日　開館時間は 9:00～18:00（土曜は 15:00 まで）。日曜は休館。第 2 開架閲覧室のパソコンコーナーと新聞コーナーを開放。また，新着雑誌の重要性に鑑み，第 1 開架閲覧室の机上に移動して閲覧に供した。上記以外の閲覧室，書庫，及び開架書架周辺は立入禁止とし，館外貸出については 4 月 3 日までと同様に出納方式をとった。

4 月 25 日以降　全面開館。開館時間は平日 8:30～20:00。（土曜，休日は従来と同様。）

6 月 27 日以降　平日の開館時間を 22:00 までに戻し，平常開館とした。

② 対応マニュアルの整備等

震災を受け，生田図書館としての地震発生時対応マニュアルをあらためて作成した。これを基に 5 月 31 日，半日休館を利用して事務室員・業務委託スタッフ合同の対応訓練を実施した。

3.4.2　閲覧室整備

① 老朽化した雑誌架を，新規木製 16 台に入れ換えた。設置に際しては耐震措置として，書架天板へのジョイント加工及び床へのアンカー打ちを施した。側板を他の書架と合わせて明るい色にしたこと，当該箇所のカーペットが張り替えられたこと，書架の間隔を広くとったことと相まって雑誌コーナーが風通し良く明るくなった。

② 耐震措置として，感震式書籍落下防止装置 100 台を，参考図書コーナーの高書架上部 2 段に設置した。

③ 書庫を除く閲覧室全体に無線 LAN 設備が設置された。これにより従来のグループ閲覧室に加え，閲覧室全域でインターネットの利用が可能になった。

3.4.3　展示ギャラリーの運用

2011 年度は 13 件（学部・研究科等企画 9 件，図書館企画 4 件）の企画展示を開催した。内容は学部生・大学院生の作品発表，教員・研究室・ゼミナールの研究・活動成果発表等。とりわけ 10 月開催の「黒川の自然と文化　－農場建設工事における生物多様性保全－」は，後述の川崎市立図書館との共同シンポジウムの関連企画であり，川崎市民からも大いに注目された。詳細は「4　主要行事　生田図書館ギャラリー（名称「Gallery ZERO」）展示一覧」参照。

3.4.4　ガイダンス及び情報リテラシー教育の充実

① 新入生ガイダンスを，理工学部2回（計1,070名），農学部1回（600名）実施。また，5月中旬の昼休みを中心に12回の館内フリーツアーを設定し，計14名の参加があった。4月6日に12名を対象に新任教員ガイダンスを実施した。

② ゼミツアーを19回行い，計180名の参加があった。

③ 情報検索利用講習会（Web of Science，SciFinder，JDreamⅡ，ProQuest Dialog）を全7回実施し，計59名の参加があった。

④ 「就活 Power up 講座」，「英語文献検索講座」を各2回，大学院生による「レポート・論文の書き方講座」を4回実施し，計57名の参加があった。

⑤ 農学部食料環境政策学科の「基礎ゼミ」（受講者195名）のうち2コマ「図書館利用法と新聞記事検索演習」，「図書館を活用したレジュメ作成と文献等検索演習」に計8回の出張講義を行った。

3.4.5　学習用図書選書

① 6月22日に理工・農両学部合同の「教員による学習用図書選書委員会」を開催し，学習用外国書購入費の執行に関る選書方法，学生の図書館利用促進等について意見交換を行った。

② 複本購入費（政策経費）生田配分額120万円について，教員に図書の推薦を依頼し，必要冊数を購入した。また，生田図書館選書として，各月の貸出予約が付いた図書を抽出し，過去1年の貸出回数が5回以上の図書は3冊，それ以外のものは2冊が書架に揃うよう購入した。合わせて，2011年1月1日～2012年2月27日までのベストリーダーのうち，貸出回数14回以上のもので，複本がないものを購入した。

③ 学習用外国書購入費（政策経費）の生田配分額95万円の執行にあたっては，教員に推薦を募り，寄せられた61冊に，理工学分野の洋書ベストセラーから選書したものを加えた計135冊を購入した。

④ 学生による「ブックハンティング」を2月17日にジュンク堂書店新宿店にて実施した。

3.4.6　特集コーナーの企画

期間毎に設定したテーマについて関連資料を新着図書コーナー隣の書架に配架し，利用者に読書に親しんでもらう機会とした。

4月1日～ 5月1日	はじまる！新生活 （レポート・論文の書き方，勉強法を身につけよう。新生活に向けて） いま私たちにできること（防災・ボランティア）
5月2日～ 5月31日	映画の原作
6月3日～ 6月28日	岡本太郎生誕100年
6月29日～7月26日	わくわく動物ランド―クジラは昔，カバだった―
7月27日～9月27日	夏読のすすめ
9月28日～10月25日	のりものの科学
10月26日～11月22日	デザインと生活
11月28日～12月25日	災害とエネルギー
1月18日～2月14日	春休みにはミュージアムへ行こう
2月15日～3月31日	図書館スタッフのレコメンブック

3.4.7　川崎市立図書館との相互協力

新たに川崎全市に連携を拡大した2010年度に比して，ライブラリーカード作成者は大きく減少した一方，入館者数，館外貸出冊数ともに増加した。川崎市民のなかでコア利用者が形成されてきたとみられる。

2009 年度（川崎市立多摩図書館のみとの協定）からのデータ推移は以下のとおり。

	2009 年度	2010 年度	2011 年度
ライブラリーカード作成者数	40 名	137 名	58 名
入館者数	2,804 名	3,271 名	4,046 名
貸出冊数	1,466 冊	1,805 冊	2,061 冊

なお，相互協力の一環として，10 月 22 日（土）14:00～16:00，川崎市立図書館との共同シンポジウム「身近な環境に学ぶ－自然再生から最先端科学までー」を生田キャンパスで開催した。講演者は倉本宣本学農学部教授，藤嶋昭東京理科大学学長，高柳芳恵氏（絵本作家）の 3 名，コーディネーターとして岩本陽児和光大学准教授。参加者 105 名を数え，盛会のうちに終了した。

3.4.8　その他

① 飲料の館内持ち込み解禁

東日本大震災に伴う原発事故により，各キャンパスとも節電を余儀なくされた。かねてより本学図書館でも館内への飲料持込の是非について議論していたところ，熱中症対策として，これを機に飲料持込・水分補給を認める旨を決定し，生田図書館では 7 月 6 日からこれを実施した。飲料はペットボトルや水筒等蓋付きのものに限定し，パソコンエリア及び貸出パソコン使用中の摂取は不可とした。運用の結果，利用者のマナーにも大きな問題はなく，秋以降も恒常的にこの措置を継続することとした。

② 投書への回答

2011 年度には 16 件の投書があった。内容は施設設備（特にパソコン関係），設置資料や運用等さまざまである。有益な提言もある他，回答を通じ，利用者に対する図書館資料・サービスの一層の周知機会ともなっている。